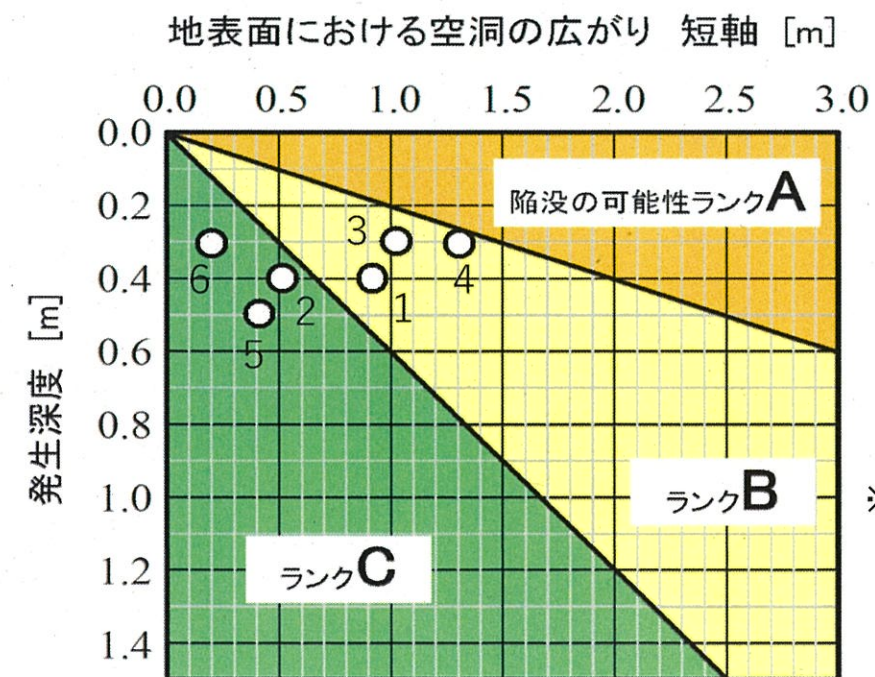
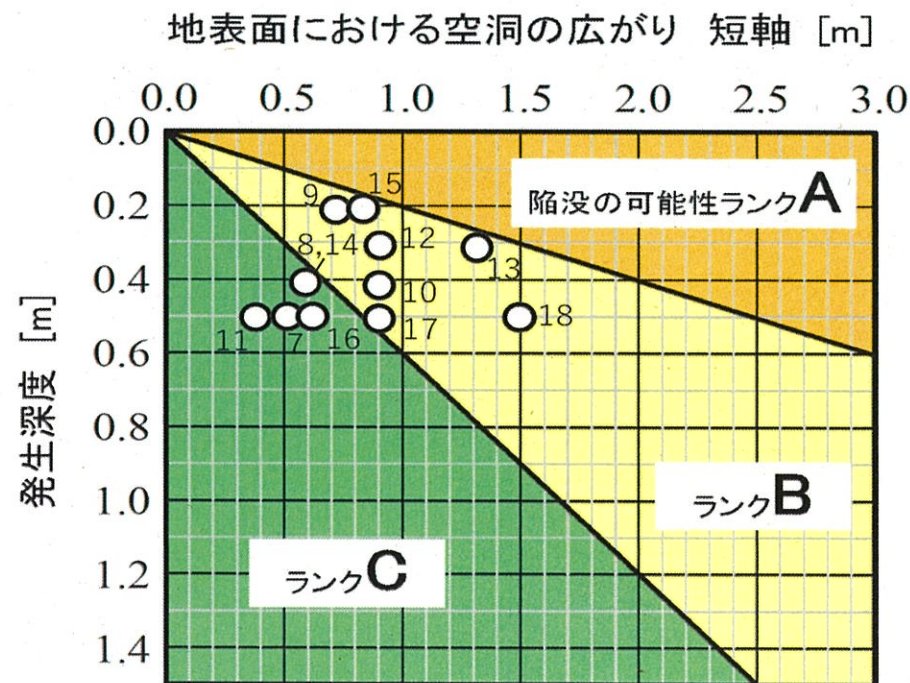
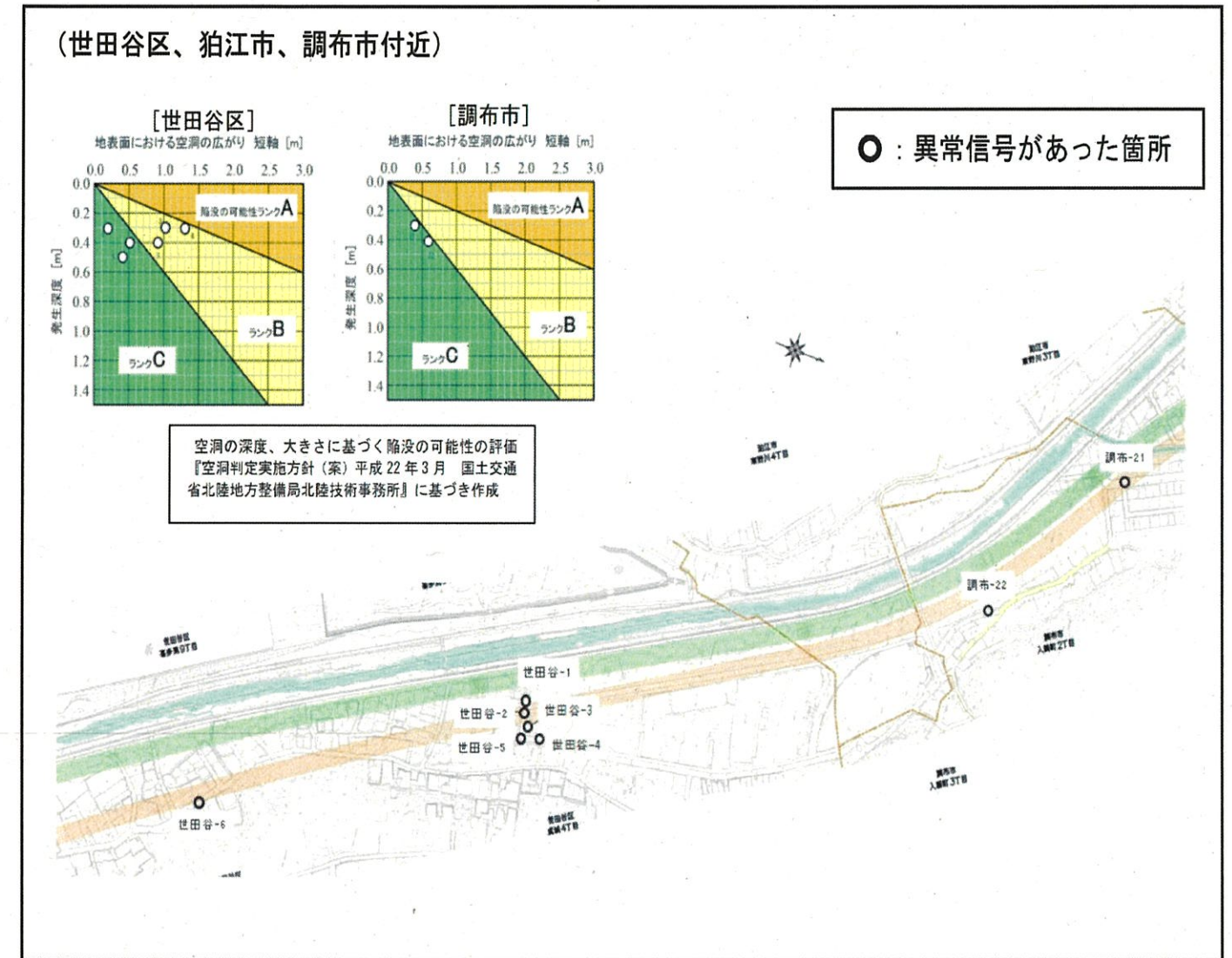
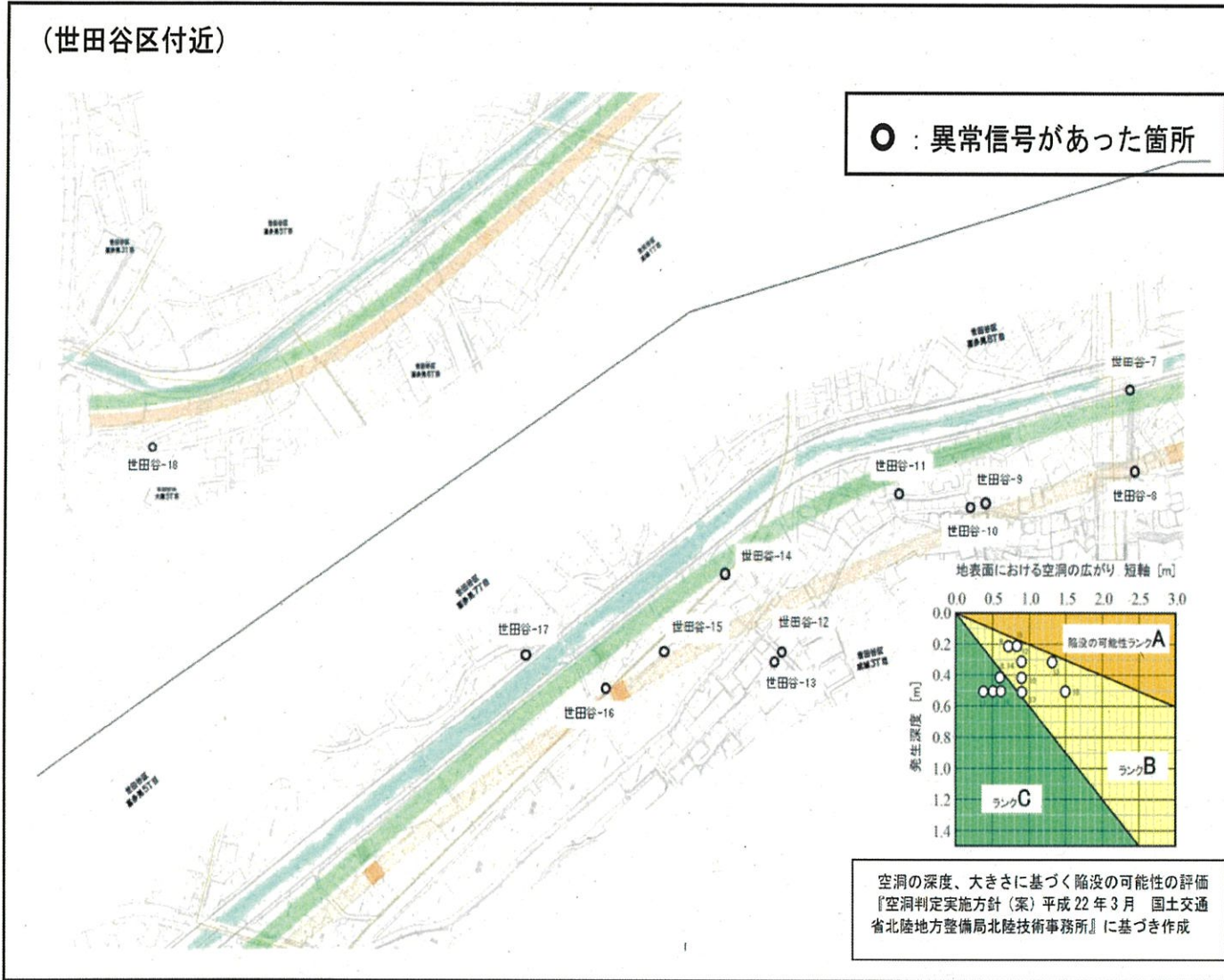


路面下空洞調査は、地表下 1.5m 程度までの地下にある空洞を調査するものであり、陥没箇所・空洞箇所周辺において、10 月 18 日に発生した陥没事象と同様に、直ちに陥没に至るような差し迫った空洞の有無を調べるために実施した。路面下空洞調査の結果、いずれの箇所も陥没の可能性ランク A に分類される箇所は確認されなかった。また、異常信号があった箇所は、トンネル直上に集中していないことから、シールドトンネルの施工が影響している可能性は低いと考えられる。(※地表面における空洞の広がり短軸が大きく、発生深度が浅いほど、陥没の可能性が高いランク A となる。)

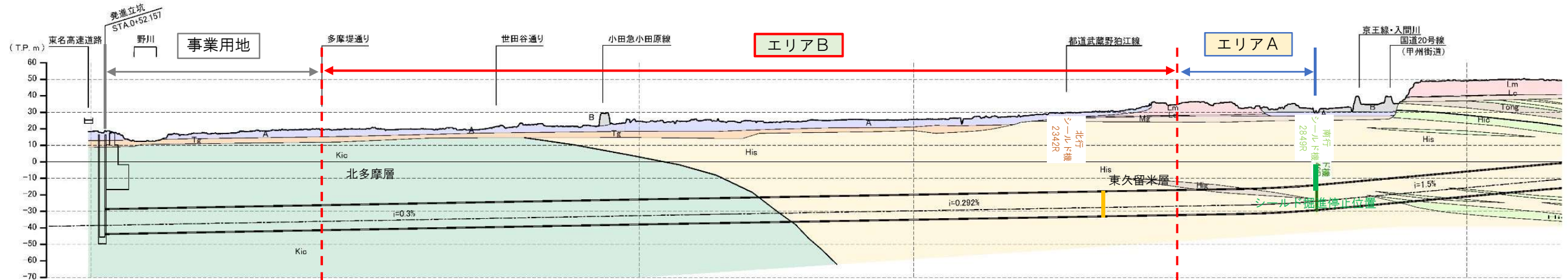


※世田谷区作成資料:「第 6 回 東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」別冊資料 参考資料より抜粋



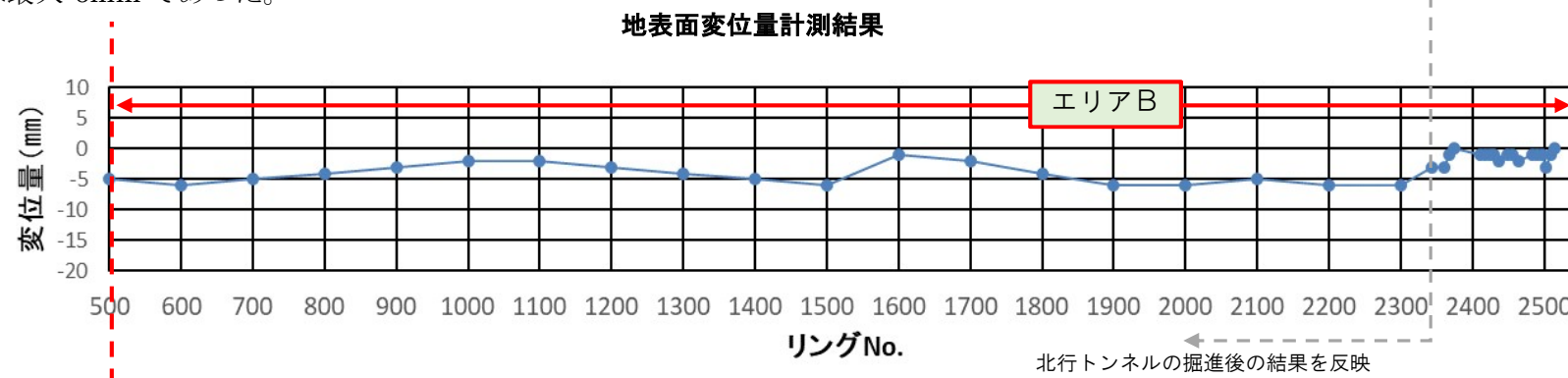
6. これまでの掘進区間の地盤状況の調査結果 (エリアB)

6.1 調査対象範囲区間



6.2 地表面変位計測結果

エリア B において、地表面変位量は最大-6mm であった。



エリア B において、地表面傾斜角は最大 0.3/1000rad であった。

